

〈解答〉

① (1) 5 (2) -1 (3) $6a - 7$

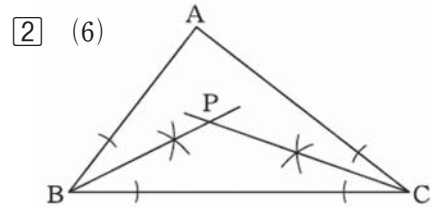
(4) $-8y^3$ (5) $\frac{11x+y}{6}$

② (1) 7個 (2) $x = 2, y = -1$

(3) $c = \frac{6b-a}{2}$ (4) $y = -3x$

(5) $\angle x = 360^\circ - a^\circ - b^\circ$ (6) 右図

(7) $36\pi\text{cm}^3$ (8) 0.45



配点 各2点 26点満点

〈解説〉

① (1) $3 - (-2) = 3 + 2 = 5$

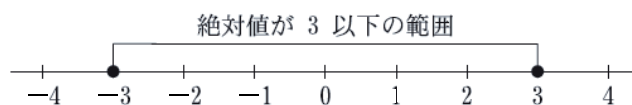
(2) $\frac{1}{2} \times (-8) + 3 = -4 + 3 = -1$

(3) $3(5a - 2) - (9a + 1) = 15a - 6 - 9a - 1$
 $= 15a - 9a - 6 - 1$
 $= 6a - 7$

(4) $(-4xy^2)^2 \div (-2x^2y) = 16x^2y^4 \div (-2x^2y)$
 $= 16x^2y^4 \times \left(-\frac{1}{2x^2y}\right)$
 $= -\frac{16x^2y^4}{2x^2y}$
 $= -8y^3$

(5) $\frac{3x-y}{2} + \frac{x+2y}{3} = \frac{(3x-y) \times 3}{2 \times 3} + \frac{(x+2y) \times 2}{3 \times 2}$
 $= \frac{3(3x-y) + 2(x+2y)}{6}$
 $= \frac{9x - 3y + 2x + 4y}{6}$
 $= \frac{9x + 2x - 3y + 4y}{6}$
 $= \frac{11x + y}{6}$

- ② (1) 絶対値とは、数直線上における0(原点)からの距離である。また、絶対値が3以下ということは、絶対値が3の整数も含む。よって、下の図より、 $-3, -2, -1, 0, 1, 2, 3$ の7個である。なお、図中の●は、範囲にその数を含むことを意味する。



$$(2) \begin{cases} 2x - 5y = 9 & \dots \textcircled{1} \\ 4x + y = 7 & \dots \textcircled{2} \end{cases}$$

$$\begin{array}{r} \textcircled{1} \times 2 - \textcircled{2} \quad 4x - 10y = 18 \\ \quad \quad \quad -) 4x + y = 7 \\ \hline \quad \quad \quad -11y = 11 \\ \quad \quad \quad y = -1 \quad \dots \textcircled{3} \end{array}$$

③を②に代入して,

$$\begin{aligned} 4x + (-1) &= 7 \\ 4x - 1 &= 7 \\ 4x &= 8 \\ x &= 2 \end{aligned}$$

(3) $a = 2(3b - c)$

右辺を展開して,

$$a = 6b - 2c$$

左辺の a を右辺に, 右辺の $-2c$ を左辺に移項して,

$$2c = 6b - a$$

両辺を2で割って,

$$c = \frac{6b - a}{2}$$

(4) y は x に比例するので, $y = ax$ とおく。

この式に $x = -2$, $y = 6$ を代入すると, $6 = -2a$

これを解いて, $a = -3$

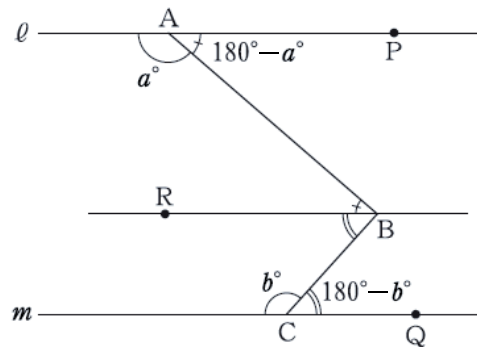
よって, $y = -3x$

(5) 下の図で, $\angle BAP = 180^\circ - a^\circ$, $\angle BCQ = 180^\circ - b^\circ$ である。

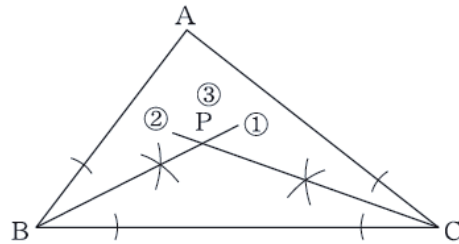
点Bを通過して ℓ に平行な直線を引くと, 平行線の錯角なので,

$\angle ABR = \angle BAP = 180^\circ - a^\circ$, $\angle CBR = \angle BCQ = 180^\circ - b^\circ$ である。

よって, $\angle x = \angle ABR + \angle CBR = (180^\circ - a^\circ) + (180^\circ - b^\circ) = 360^\circ - a^\circ - b^\circ$



- (6) 辺ABと辺BCから等しい距離にある点は∠Bの二等分線上にあり、辺BCと辺CAから等しい距離にある点は∠Cの二等分線上にあることから、下の図のように、以下の手順①～③で作図するとよい。



- ① ∠Bの二等分線を作図する。
 - ② ∠Cの二等分線を作図する。
 - ③ ①, ②で作図したそれぞれの二等分線の交点をPとする。
- (7) 半径 r の球の体積 V は、 $V = \frac{4}{3} \pi r^3$ という式で求められる。
 直径が 6 cm の球なので、半径は $6 \div 2 = 3$ [cm]
 よって、その体積は $\frac{4}{3} \times \pi \times 3^3 = 36\pi$ [cm³] である。
 なお、半径 r の球の表面積 S は、 $S = 4\pi r^2$ という式で求められる。
- (8) 相対度数とは、度数の合計に対する、ある階級の度数の割合で、次の式で求められる。

$$(\text{相対度数}) = \frac{(\text{ある階級の度数})}{(\text{度数の合計})}$$
 度数の合計は 20、記録が 12m 以上 16m 未満の階級の度数は 9 なので、その相対度数は $\frac{9}{20} = 0.45$ である。